



News Letter

日本小児看護学会 第24回学術集会開催に向けて



第24回学術集会の開催まで、残すところ数ヶ月となりました。多くの皆様のご支援により、ここまで準備を進めて参りましたことをお礼申し上げます。

学術集会のメインテーマは、『とどけよう！小児看護の知と技とこころー培ってきたものをすべての子どもと仲間にー』といたしました。

日本小児看護学会はこれまで、子どもを中心に据え、多くの看護を研究開発し、その叡智を普及する役割を果たしてきましたが、全国の混合病棟の片隅にいる子ども達、都会の真ん中の大きな病院の中で少数派の子ども達に、学会員の叡智と経験は届いているのでしょうか。いつしか、子どもの看護は病院の片隅に追いやられていらないでしょうか。今いちど、私たちが培ってきた小児看護の知と技とこころを見なおし、すべての小児看護の仲間と子ども達に届けたいと考えております。

特別講演は直木賞作家で「よい子に読み聞かせ隊」隊長の志茂田景樹さんに「子どもと看護師が元気になるカゲキの檄（げき）文」というテーマで、絵本の読み聞かせを交えて子

学術集会会長 日沼 千尋
(東京女子医科大学看護学部)

ども達と私たち看護師にメールを送っていただく予定です。教育講演は子育て番組や「母性の研究」でおなじみの大日向雅美先生に「看護が子育てに出会うとき」というタイトルで、現代の親子関係や家族の状況について、先生の豊かなご経験を交えてお話し頂く予定です。シンポジウムは、「キラッと光る知と技とこころの看護実践」というテーマで、渡邊輝子さんには小児看護専門看護師として、スタッフが看護して良かったと思える支援についてお話し頂きます。横山佳世さんには子どもと家族が自分の思いを語ることを支援する取り組みについてお話し頂きます。小児救急看護認定看護師の清水称喜さんには、突然の処置をすることになった場合に子どもになにを伝えますか？との問い合わせとともに、皆様にその取り組みをお話し頂きます。小児在宅看護の立場から、梶原厚子さんには、小児在宅看護の現状と具体的な実践についてお話し頂きます。

第24回学術集会会場は久しぶりの東京、アクセスも比較的便利です。託児も準備いたしましたので、お子様連れでお気軽にご参加下さい。さらに多彩なテーマセッションなど、豊かでユニークな企画を準備して皆様をお待ちしております。職場の仲間、お友達をお誘い頂いて、多くの方にご参加いただきますよう、御願い申し上げます。

日本小児看護学会 第24回学術集会ご案内

テー マ：とどけよう！小児看護の知と技とこころー培ってきたものをすべての子どもと仲間にー
会 期：2014年7月20日(日)～21日(月・祝)
会 場：タワーホール船堀(都営新宿線 船堀駅前)
東京都江戸川区船堀4-1-1 TEL: 03-5676-2211(代)

プログラム【1日目】:

- ・会長講演：「確かにとどける小児看護の知と技とこころ」
日沼 千尋 (東京女子医科大学看護学部 小児看護学 教授)
- ・特別講演：「子どもと看護師が元気になるカゲキの檄（げき）文」
志茂田 景樹
(直木賞受賞作家・「よい子に読み聞かせ隊」隊長)
- ・テーマセッション、一般演題(口演・示説)、総会、懇親会

プログラム【2日目】:

- ・教育講演：「看護が子育てに出会うとき」
大日向 雅美 (恵泉女学園大学大学院 平和学研究科 教授)
- ・シンポジウム：「キラッと光る知と技とこころの看護実践」
- ・テーマセッション、一般演題(口演・示説)、ランチパフォーマンス

参加申し込み：

学術集会 web サイト <http://www.jschn24.com/>から
画面表示に従って登録してください

参加費：

会員 事前登録	10,000円、当日登録12,000円
非会員 事前登録	11,000円、当日登録13,000円
学 生 (大学院生や認定看護師教育課程は除きます)	事前・当日登録 3,000円
懇親会：7,000円	

学術集会事務局 (学術的なお問い合わせ)

東京女子医科大学看護学部小児看護学

E-mail : jschn24.bk@tamu.ac.jp

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

運営事務局 (演題登録・事前参加・学会運営に関するお問い合わせ)

株式会社 ICS コンベンションデザイン

E-mail: jschn24@ics-inc.co.jp

〒101-8449 東京都千代田区猿楽町1-5-18 千代田ビル

TEL: 03-3219-3541 FAX: 03-3219-3577

委員会活動紹介 災害対策委員会

委員長：勝田仁美

委 員：遠藤芳子（北海道・東北）、田村恵美（関東）、草場ヒフミ（東京）、浅野みどり（甲信越・北陸・東海）、三宅一代（近畿）、薬師神裕子（中国・四国）、幸松美智子（九州・沖縄）、古橋知子、谷口恵美子、山本真実

日本全国どこで起こるか分からない災害。あなたの地域ではどのような災害が考えられますか。災害が起こると激しい混乱が続く中で、子どもたちやその家族の問題は、全体に紛れて埋もれてしまい見えにくくなります。一見元気そうに見える子ども達ですが、そのような時こそ小児看護の専門家が必要とされるのではないかと思います。

災害対策委員会は、東日本大震災への支援活動を機に設置された委員会で、2011年度に開設され2013年度より常設の委員会となりました。この委員会のメンバーは11名ですが、評議員のうち全国7地区の各地区から1名が代表として理事長から選出されて委員となる者と、会員とで構成される珍しい委員会です。皆様が所属している地区的災害対策委員がだれであるか確認していただけましたらと思います！

子どもの災害の知識や情報が欲しいときには！

会員の皆様は、学会のホームページの「東日本大震災関連情報 紛」の中を覗いてみられたことはありますか？子どもや家族の災害に関連した資料を手に入れたい方にとっては宝が眠っていると思います。これからも情報の集約ができるよう充実させていきたいと思っています。

災害ネットワーク構築に参加してください！

皆様の地区の代表委員がだれであるかを知っていただきたいのは、災害対策マニュアルに基づいたネットワークの構築を計画しているからです。各地区的評議員代表が地区リーダーとなって地区の評議員や会員とネットワークを構築することにより、災害時に、被災地情報を収集したり、逆に会員等からの支援の申し出をマッチングできるようシステムづくりに取り組みます。まだ構築途上ですが、今後ホームページにも掲載しますので皆様も是非加わって下さい。

災害の研修会 開催していきます！

はじめて3月9日に名古屋で、「災害に備えて子どもを守る—医療現場で看護師に求められること—」を開催しました。「東日本大震災を経験して—災害準備につなげた取り組みー」を宮城県立こども病院の日戸千恵氏に、「たゆまぬ病棟の災害対策の取り組みで備える」を広島市民病院の山根民子氏にお話しいただき、どのようにして子どもを守ったらよいのか参加者みんなで考えました。会員を対象とした災害への意識向上のための研修会活動として、今後も色々な地区で研修会の開催を計画しています。随時ホームページに掲載します。

震災支援金助成事業に応募しよう！

日本小児看護学会では、皆様に募金をお願いし、それを東日本大震災に関連した子どもたちへの中・長期的な支援に関する事業（調査・研究を含む）の助成に役立てる目的で、支援事業の募集をしています。これまで5人の個人やグループに助成し、被災地の子ども達への支援に役立て頂きました。災害のあった地域や、疎開先の地域など、東日本大震災に関連する子どもたちの支援をしておられる方、これから計画される方、ぜひ応募していただけましたらと思います！助成金応募の詳しい説明はホームページをご覧ください。

災害初動期にはすぐに動けないなど「学会」の立場としてできることに限界はありますが、子どもや家族への支援をこれからも模索していきたいと思いますので、会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。



研修会（3月9日）の様子



「リレートーク」中野 綾美さん

自己紹介

山口県下関市の出身です。3人きょうだいの末っ子で、夏休みの宿題は、姉や兄が手分けをして完成し、9月1日に私は、ニコニコして学校に行きました。その後の人生も、いつも困った時は誰か助けてくださる人がいます。高知女子大学で学び、臨床で看護師をした後に母校に帰り、学生と一緒に小児看護実習で学ぶ中で、小児看護を専門領域にしたいと思って、聖路加看護大学の修士課程に進学しました。ちょうど片田範子先生がUCSFから帰ってこられた年の1年生です。片田先生からセルフケア理論を基盤とした小児看護、看護倫理、質的研究方法を用いて看護現象を浮き彫りにすることを学びました。村田恵子先生と同じ学年で学ぶ機会を頂き、家族中心の看護を学びました。豊かな2年間でした。修了後、看護師をした後に、再び高知女子大学に戻り、勤務しながら日本赤十字看護大学博士課程で、筒井真優美先生から、ケアリング、レイニングガーナの看護論に基づく小児看護を学びました。現在も高知県立大学で看護教員として歩んでいます。

看護師になったきっかけ：

9つ年上の姉が、看護師でした。姉の生き方から「看護ってやりがいがある仕事だなー。楽しそうだなー」と思ったのが、きっかけです。

新人時代の思い出：

看護師として、脳外科病棟でスタートし、大人の患者さんが多い中で、脳腫瘍や水頭症、交通事故などのために入院している子どもや家族との出会いがありました。婦長さんは、先輩方の中で一番優しい先輩を私のプリセプターにしてくださいました。何をするのも、ゆっくりしているので（今も変わっていません）、新人時代は、「気は心、せめて言葉だけでも！」と思い、「テキパキ、テキパキ」と呟きながら仕事をしていました。新人時代と一緒に奮闘した同期4人で、看護者として30年が経過した年から、年に1回集まっています。素敵な同志です。

小児看護の魅力：

子どもと出会うと、優しい気持ちになります。駆け足で過ぎている時間が、ゆっくりした時間の流れに変わります。気がつくとエネルギーが湧いています。

精一杯生きる子どもと子どもを育む家族が歩んでいる

道のりに関わり、その子どもらしい生活、家族らしい生活が営めるように、一人ひとりの看護者、チーム、多職種が知識と技術を結集し、実践家と研究者が共同して、新たなアプローチを生み出していくことに魅力を感じます。教育活動や研究活動、地域貢献活動を通して、多くの方々との出会いがあります。組織を超えて、異なる立場からの意見交換、「子どもにとってよいこと」を探求することができる機会をいただけることは、とても充実した時間です。感謝しつつ、これからも、楽しんで活動していきたいと思います。

ストレス解消法：

美味しいコーヒーとお菓子をいただくこと。かわいい雑貨の買い物をすること。

後輩たちに期待すること：

私が大切だと思うことは、

- 自分とは別の人格である他者を解ることは難しく、解っていないことを自覚しておくこと
- 解ったつもりにならず、専門的な知識や技術を用いて、子どもや家族を解る最大限の努力を続けること
- 子どもの権利が脅かされている状況や、脅かされることが予測される場合は、看護の立場から発信していくこと
- 小児看護に携わる看護者が、お互いの持ち味や専門性を発揮していくことができる自由度、多様性を認め合うこと、などです。

バトンを受けて欲しい人草場ヒフミさん



研究プロジェクトのメンバーとともに（前列中央が筆者）

2014年度日本小児看護学会地方会（東北地区）開催案内

2014年度地方会（東北地区）を2014年9月13日（土）に山形大学医学部看護学科（山形市）において開催いたします。テーマは「専門領域における看護実践から子どもと家族の支援を考える」です。教育講演は聖路加国際病院の細谷亮太先生より、長年の実践をもとに子どもと家族の支援についてご講演を頂きます。シンポジウムでは小児高度医療における看護、小児精神看護、小児訪問看護の各領域の実践をもとに子どもと家族の支援を考えていきます。会長は山形大学医学部看護学科の佐藤幸子氏です。詳細につきましては、学会ホームページでお知らせいたします。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

～教育委員会からの報告～ 研修会「小児看護をする人を育てよう、困っていることを話し合おう」について

教育委員会は2013年度から設立され、地方会の支援、小児看護の質の向上や小児看護を担う人への教育に関する活動を行う委員会です。今回は新しい研修企画についてご紹介します。小児看護を担う人材育成の充実は、基礎教育、継続教育ともに重要な課題です。今回の研修会は、関東圏を中心に一定以上の病床数を持つ病院と短期大学・大学に参加者を募り、特に初めて小児看護に携わる人をどう育てているのか、その教育における課題とその解決の糸口を探ることを目的に企画しました。60名募集のところ80名あまりの応募者がありました。ところが2月8日(土)当日、関東圏は何十年ぶりかの大雪にみまわれ、交通の困難が予測される事態となりました。参加者に連絡をとり、参加が可能と判断した人で時間短縮して開催することとし、37名の参加者と委員、話題提供者含め44名で研修会を開催しました。まず北里大学看護学部の内藤茂幸先生から、「基礎教育と継続教育の連携」というテーマで、現在の学生や新卒看護師の特徴、小児看護の現場の実情と学習上の課題、小児看護新人看護師の困難などの現状と、北里大学で実施されている基礎教育と臨床教育の連続性や協働の体制について紹介していただきました。その後予定時間を大幅に短縮し、1時間のグループワークと30分の共有の時間を持ち、初めて小児

看護に関わる人の育成の現状や課題を中心に話し合いました。ゆとりをもって育てたいという思いの一方で、要求される業務量や内容のジレンマ、コミュニケーションの課題、育てる側のスキルの模索、小児看護へのモチベーション維持の問題、家族との関わりの困難など多くの課題が出されました。さらに小児看護技術獲得の評価方法の課題は多くのグループで話されました。新生児室から病棟、外来の組織連携により専門性の認識を向上させること、多職種を含めた教育で「子ども」をより理解すること、数年をかけたステップアップ計画など、今後の手がかりとなる内容も出されました。小児看護技術の評価基準など教育のコアになる内容の検討を学会でとりくむ必要性も出されました。アンケートによる評価では、参加者の満足度は高く、継続した研修会開催が期待されていました。委員会では、今後も継続して研修会を企画し、学会として小児看護の人材育成に関する発信ができればと考えています。



2013年度日本小児看護学会地方会（近畿地区）開催報告

13回目となる地方会は、「もっと子どもたちのための小児看護を」をテーマに、和歌山県立医科大学保健看護学部にて1月25日(土)に開催しました。

近畿地区2府4県から参加者がおり、小児看護に対する熱意を感じることができました。参加者は約180名で、県別では和歌山県78名、大阪府50名、兵庫県31名、滋賀県7名、京都府7名、奈良県6名、職種も、看護師、保育士、保健師、医師、教員などでした。

教育講演では、特定非営利活動法人日本クリニクラウン協会クリニクラウントレーナー／理事の石井裕子氏より「心身の成長に必要な関わりを～子ども自らが一步を踏み出すために～」をテーマとし、実際の活動場面の動画も見せていただき、笑顔の素晴らしさや看護の可能性について教えていただきました。

シンポジウムは、「家庭・外来・病棟における小児看護の連携」をテーマに、家族代表の角下委津子氏とご子息の洋之氏から、「僕たちの歩む道・今を生きる～医療的ケアを必要とする子どもたちのこと知って、つながって、共に歩んで～」のお話をいただきました。ご家族から直接、20年近くの生活について、医療現場の実態、要望などについて、貴重なお話をいただき、今後の課題などを参加者と共有することができました。愛徳医療福祉センター

臨床心理士の小山由美氏からは、発達障害のある子どもたちへの医療について、現状と課題などお話いただき、子どもたちを中心とした医療のあり方について多くの示唆をいただきました。和歌山つくし医療・福祉センターに勤務されている丸山美智子氏より、小児在宅医療の課題やレスパイトについてお話いただき、親と子どもの生活を考慮した医療の在り方について学ばせていただきました。兵庫県立こども病院の看護師長兼小児救急看護認定看護師の清水千喜氏より子どもを理解することの難しさと個性豊かな子どもたちとのかかわり方など具体的に教えていただきました。参加者の声から、時間が短くもっと聞きたかったという意見が多くありました。

小児看護について考えるこのような機会をいただけたことを感謝いたします。今後も小児看護の質の向上をみんなと共に考え、実践していきたいと思います。(文責：内海みよ子)



第5回(2015年度) 日本小児看護学会研究助成公募

日本小児看護学会では、子どもたちの健康増進に寄与するために、小児看護の実践・教育に関する調査・研究の費用の一部を助成しております。助成は年間2件（1件10万円）です。

【応募資格】

代表研究者は入会年度を含めて3年以上を経過した者であり、大学や研究機関に所属するものが代表研究者になることはできません。また、代表研究者および全ての共同研究者は、2014年度の会費を納入した本学会の会員であることが必要です。

【研究テーマ】

小児看護の実践・教育に関するテーマとします。但し、営利を目的または営利につながる可能性の大きい研究や他の機関から助成を受けている研究(予定を含む)は助成対象となりません。

【応募締切】 2014年11月30日(日)必着

詳細は、学会HPをご参照ください。皆様からの応募お待ちしております。

◆編集後記◆

日本小児看護学会ニュースレター第44号をお届けします。

今号より、各委員会の活動状況を順次紹介していく予定です。本学会の目的である「小児看護に関する実践、教育及び研究の発展と向上に努め、それらを通して子どもの健康増進に寄与することを目指した様々な委員会活動について、会員の皆さんにお知らせするとともに、広くご意見や感想をいただく機会になれば幸いに思います。HPや会員専用SNSについても、ぜひご意見をお寄せください。

広報委員会メンバー

委員長：武田淳子

委員：塩飽仁、今野美紀、遠藤芳子、浅利剛史、大池真樹